

問題の所在と目的

障害のある人が、いじめや偏見を受けることなく積極的に社会参加をしていくためには、周囲にいる人々の障害理解が重要であることが指摘されている（WHO, 1999）。しかし、正しい障害理解とは、どういったことを指すのかについては、まだ十分に明らかにされているとはいえない。

障害理解を促すアプローチの研究には、企業や大学生を対象としたものが比較的多くあり、「シミュレーション」（徳田・桐原・高見, 1996；徳田・高見・桐原, 1996）, 「講演」（望月・青柳・徳田, 1997）, 「接触経験」（中田・鶴岡・岩崎・柴田, 2004；丹所・徳田, 1996；鶴岡・中田・岩崎・柴田, 2004）の効果の検証, また、障害理解のための「マニュアル」の作成（徳田・青柳・野口・谷口・望月・水野, 1997）が行われている。

一方、徳田（1994）は、アプローチの一つとして、幼児期（早期）からの障害理解教育の重要性を指摘しており、これに関連する研究としては、幼稚園／保育所（佐藤・徳田, 1993）や小学校（黒川・是永, 2005；松本・徳田, 1994；佐藤, 2001；佐藤, 2002；佐藤・菅原, 2000）で実践されている障害理解教育の実態, また、障害に対する子どもの認識（森・安田・星名, 1993；小田・井上・松岡, 2003；平・徳田, 1994；安田・青木・森・星名）などを調べたものがある。しかし、従来、このような障害理解教育に関する研究で取りあげられた内容の多くは、視覚障害（松本・徳田, 1994）や聴覚障害（佐藤, 2001；佐藤, 2002；佐藤・菅原, 2000）などの感覚障害等に関するものであり、通常の学級にいる子どもたちの多様な教育的ニーズを包括的に扱った研究はこれまでにほとんどないといってよい。さらに、松本・徳田（1995；1999）のように、障害理解教育の効果を実証的に調べた研究はきわめて少ないと思われる。

平成16年の障害者基本法の改正では、「国及び地方公共団体は、障害のある児童及び生徒と障害のない児童及び生徒との交流及び共同学習を積極的に進めることによってその相互理解を促進しなければならない」ことが指摘されており、通常の学級において、障害のある子どもとない子どもが相互に個々人の特性やニーズを認め合っていく必要性は、今後益々増加していくことが推測される。このような流れの中で、通常の学級における障害理解教育の在り方を検討していくことは重要なことといえよう。

小学校で障害理解教育を進めるにあたっては、資料を用いるケースが多いことが示されており（松本・徳田, 1994）, また、いくつかの研究では、障害者や障害そのものに関する認識の向上や適切な態度の形成を図る上で、絵本や児童文学作品の利用が有効であることが指摘されている（真城, 2002；徳田, 1994；望月・徳田, 1994）。特に、比較的年齢の低い段階においては、障害がある／ないといった観点から相手を捉えるのではなく、仲間・友人の一人として受けとめており（森・安田・星名, 1993）, そういった子どもたちへのアプローチにおいては、障害についての単なる知識の提供だけでなく、絵本や児童文学作品を用いることによって、障害のある子ども（対象）に対する親しさをもたせることや（徳田, 1994）, 自らの生活場面を意識ながら共感的に理解を深めていくことが大切であるといわれている（真城, 2002；徳田, 1994）。

以上のことを踏まえ、本研究グループでは、通常の学級において、視覚障害、聴覚障害、重度重複障害、肢体不自由、病弱、情緒障害、自閉症、LD、ADHD等の子どもたちが示す幅広い教育的ニーズを題材として、(a) 障害のある子どもの気持ち、さらに、(b) その子どもたちに対してどのような支援が可能か、について考える機会を、周囲の子どもたちに提供するツールが開発できないかと考えた。本研究では、このような通常の学級における障害理解のツール開発の一つの柱として、年齢の低い段階の子どもでも利用可能なブックレット（絵本）を作成する。その後に、実際にブックレットを活用した教員の意見や子どもの反応を検証して、障害理解のツール開発に関する課題を整理することを目的とする。

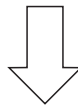
本研究の構成

研究の目的

障害のある子どもの周囲にいる子どもたちへ，障害のある子どもの気持ちについて考えるきっかけを提供する

障害のある子どもたちに対し，どういう支援が可能かを考える機会を提供する

本研究では，これらのきっかけになるような，通常の学級の中で用いることのできるツールを開発する



研究Ⅰ

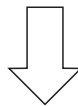
障害理解のためのツールであるブックレット（試案）の作成



ブックレットの内容，文字の大きさ，分量などについて
交流および共同学習に関わっている教員らに対して質問紙調査



この結果をもとに，ブックレット
『きみのこと，もっとしりたいな
なにができるかな？なにができるかな？』（試作版）の作成

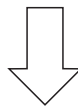


研究Ⅱ

ブックレット（試作版）を活用してもらい，教員の意見，子どもの反応についてデータを収集する



特徴，改善点などについて考察する



まとめと今後の課題

全体をまとめるとともに，目的を達するために必要な課題について整理する